

助けが必要な人の確認

安否
確認

主な役割

1. 助けが必要な人を確認する（安否確認）
2. 安否が不明な人を中心に記録する

取り組み手順

① 助けが必要な人を確認する

自治会

- ・隣組を使って確認する

【注意】自治会非加入者も確認すること！

民間マンション

- ・管理人がいる場合は、管理人が中心になって確認する
- ・管理人がいない場合は、住民同士で確認しあう

例）・マンション入口ロビーに集合する。

集合していない人の安否を確認しに行く。

- ・玄関から出て、隣近所で安全を確認しあう。

公営住宅

- ・階段毎に確認する

確認の手順する際の手順（留意点）

1. 建物の被害等を確認（外観確認）
 - ・建物に甚大な被害がないか確認する。
2. 以下の手順で安否状況を確認する
 - 1) 大きな声で呼びかける
 - 2) ドアをたたく、呼び鈴をならす
 - 3) 可能ならばベランダ側からも確認する
 - 4) 近所の人等にも確認してみる（外出の可能性等）

② 助けが必要な人、安否不明者の情報を自治会・マンション単位でまとめて、地域拠点、本部に知らせる

初期消火

主な役割

1. 出火場所を確認し、消火活動人員の割り振りをする
2. 消火器具等を用いて初期消火を行う

取り組み手順

1. 出火場所を確認し、消火活動人員の割り振りをする
 - 1) 出火場所を確認する
 - 2) 消火活動人員を割り振る（3～4人のチーム体制）
2. 初期消火を行う（以下の方法がある）
 - ・ 消火器を使って消火する。
消火器の場所 コンビニエンスストア等の店舗・施設
 - ・ 耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を使って消火する。
耐震性防火水槽の場所 栄公園、見附公園、宝島池公園、深江北町高層県営住宅、本庄町中公園、本庄町公園、本庄第二市営住宅
 - ・ **その他水のある場所** 川、井戸水、学校のプール
 - ・ バケツリレーで消火する。
バケツのある場所 各家庭、防災資機材庫

消火活動でホースを利用する際の留意点

1. 消火用水の選定
 - ・ 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する
 - ・ ポンプから水面までの高低差（目安）
C級：7m以内 D級：4m以内
2. ホースの延長の注意点
 - ・ 道路・建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ・引きずりを避ける
 - ・ ホースの結合は漏水しないように確実に行う
3. 送水の時期
 - ・ ホースの延長状況を確認し、筒先担当の『放水はじめ』の合図の後、放水する。
 - ・ 放口コックを開けるときは、筒先の反動力に注意し徐々に行う。

救出・救護

主な役割

1. 住民等の救出活動を行う
2. 救護(応急手当)をする

取り組み手順

1. 人員を集める
 - ・ 3～4人のチーム体制で行動する（リーダーは安全確認・指示）

2. 道具を集める

■ 防災資機材

防災資機材倉庫場所

本庄公園、本庄中公園、栄公園、神楽公園

■ その他

道具 自動車の道具(ジャッキ等)、崩れた角材等

協力者 金物屋さん等

救出・救助の手順

1. 被害状況を把握する
 - 1) 倒壊建物に残されている人の状況を確認する
 - 2) 建物の倒壊状況、内部に進入するスペースがあるかを確認する
 - 3) 二次災害が発生する要因がないか確認する。
2. 二次災害の防止（被害が広がらないようにする）

【注意】人の声や姿が見えても、焦らない！ 安全を第一に！

 - 1) 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する
 - 2) 柱、梁等の大きな物の周辺の物を取り除くときは、ロープ・角材等で支えて固定する（大きな物がずれたり、倒壊しないため）
 - 3) 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する
ガスの元栓や電気のブレーカーは早く閉止や遮断する
3. 要救助者の救出と応急手当
 - 1) 要救助者の近くまで掘り進んだ後は、資機材を使わずに手作業にする。
 - 2) 要救助者を無理に引き出そうとしない。
 - 3) 出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

災害時要援護者の避難支援

主な役割

避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う

避難支援のポイント

1. 一人暮らしの高齢者
 - ・迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認や状況把握が必要。
2. 寝たきりの要介護高齢者
 - ・避難時は、車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
3. 認知症の疑いのある人
 - ・安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要
4. 視覚障がい者
 - ・音声による情報伝達や状況説明が必要。
避難誘導等の援助が必要。
5. 聴覚障がい者
 - ・補聴器の使用や、文字・絵図や手話を使った情報伝達、状況説明が必要
6. 言語障がい者
 - ・筆談、手話等で状況を把握することが必要
7. 在宅人工呼吸器使用者
 - ・避難所での電源確保が必要。

備蓄品・給水の確認

■ 小学校に 200 人分の備蓄（H30.7 現在 神戸市ホームページより）

備蓄品目（食料品）	備蓄品目（生活用品）
飲料水	毛布
アルファ化米	サバイバルシート
クラッカー	生理用品
缶詰	紙おむつ（成人用）
粉ミルク	紙おむつ（幼児用）

注）甲南大学等にある備蓄品は、被害の大きな地域に集中的に供給するための備蓄品（原則として直接取りに行くことはできない。）

災害時 給水マップ

東部センター
電話 451-2020



